

若葉カップ全国小学生バドミントン大会

～未来に限りない夢を描いて～



若葉カップ全国小学生バドミントン大会
大会会長 中小路 健吾
(京都府長岡京市長)

季夏の候 貴団体にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、毎年、全国の子選を勝ち抜いたクラブチームにより熱戦が繰り広げられる若葉カップ全国小学生バドミントン大会ですが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から止む無く、中止いたしました。全国的にも未だ、相当数の新規感染者が確認されており、今なお新型コロナウイルス感染拡大に予断を許さない状況が続いています。

このコロナ禍において、あらゆるスポーツ競技が中止となり、目標に向かって日々練習に励んでこられた競技者の皆さんの悔しい思いは計り知れないことと思います。そして、そのことは、「若葉カップ全国大会」への出場を目指してこられたクラブチームの皆様も同様ではないかと思えます。

昭和60年、第1回開催からこれまで受け継いで来た、「若葉カップ全国大会」へのジュニア選手の熱い想いを絶やすわけにはいきません。また、この状況下であるからこそ、選手たちの様々な想い、例えば、自身の競技目標への決意、お互い励ましあった仲間への想い、応援してくれる方への感謝の気持ちなどを受け止め、共有することでバドミントンを愛好するジュニア選手が次へのステージに夢と希望を持ち続けることができるのではないのでしょうか。

当実行委員会では現在、「若葉カップ全国大会」が引き続き、全国のジュニア選手の皆さんのバドミントンへの夢と希望の舞台となるよう、次年度開催に向け鋭意準備を進めております。

来年、元気な笑顔でお会いできることを願っております。